

一般人間ドックにおけるウイルス肝炎検診の実態調査

研究分担者：板倉 潤 武蔵野赤十字病院 消化器科
研究協力者：高橋 有香 武蔵野赤十字病院 健診部

研究要旨： 肝炎ウイルス検診は職域における検診や、国民健診でも行われているが、人間ドックにおいても行われている。上記二つの健診とは異なり、人間ドックは自発的な健診内容構成が可能であるため、関心によってはウイルス肝炎検診受検率が低下する可能性がある。武蔵野赤十字病院人間ドックにおけるウイルス肝炎検診の実態について検証を行ったところ、B型肝炎の受検率は過去5年間平均で85%であったが、C型肝炎受検率は30%程度であった。その受検者にも毎年受検しているリピーター率が70-80%と高く、新規陽性者は低率であった。新規陽性者の陽性判明後の受診率は、特にB型肝炎では、働き盛りの男性で低い傾向を示した。

A. 研究目的

ウイルス肝炎はわが国の国民病と位置づけられ、約350万人のキャリアが存在すると推定されている。しかし、市町村主体の肝炎ウイルス検査受検率は約20%程度、また職域検診においてもその受検率はいまだ低率であると報告されている。

武蔵野赤十字病院健診部ではドック事業を行っているが、対象は市町村からの委託の他、職域、自発的な受検まで幅広い受検者を受け入れている。また陽性者の多くは自院への受診を勧奨しており、経過を追やすい特徴がある。

本研究では過去5年間に武蔵野赤十字病院で健診受検した人について、肝炎ウイルス受検率と陽性率を解析し、病院健診における肝炎ウイルス検査の方向性について検討することを目的とする。

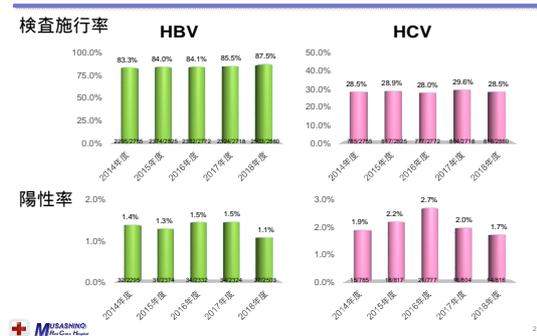
B. 研究方法

2014年度から2018年度までの武蔵野赤十字病院で健診を受けた患者、延べ13930人を対象に、HBs抗原およびHCV抗体検査受検の有無を調査した。陽性者の健診後医療機関受診率および、毎年検診を受検するリピート率

について解析を行った。

C. 研究結果

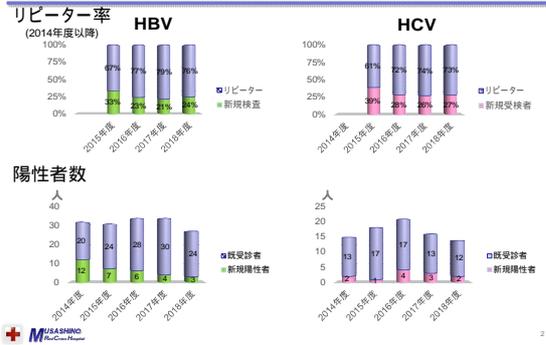
ウイルス検診施行率・陽性率



当院人間ドックにおけるウイルス肝炎検診施行率は2014年度から2018年度まで、B型肝炎83-88%、C型肝炎28-29%と、ほぼ変わらなかった。

ウイルス肝炎検診を受診した受検者においては、B型肝炎もC型肝炎も、前年度に受検したリピーターの存在率がどの年度も70-80%と高く、新規に受検した受検者は20-30%程度であった。

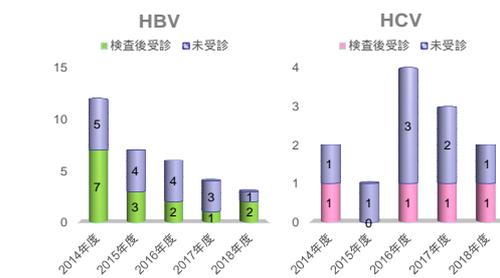
リピーター・既受診者が多い



各年度の肝炎ウイルス検診陽性者における、リピーター(既知陽性者)の割合も高く、80-90%を占めていた。

新規陽性者のその後の当院受診割合は低く、B型肝炎では30-60%、C型肝炎では各年度1人であった。

新規陽性者の受診割合



検診陽性後受診・未受診と性・年齢

		人数(人)	年齢 (year old) (median, min-max)
HBV	女	未受診	4 57 (51-67)
		受診	11 51 (33-72)
	男	未受診	6 49 (34-68)
		受診	4 64 (54-80)
HCV	女	未受診	3 69 (67-80)
		受診	1 24
	男	未受診	2 64 (62-67)
		受診	3 69 (62-78)

検診陽性判明後の受診・未受診と年齢、性別との比較を行ったところ、B型肝炎陽性が判明した男性のうち未受診であった6名では平均年齢が49歳と低い傾向を示した。

D. 考察

1. ウイルス肝炎検診リピート率について

武蔵野赤十字病院人間ドックにおける、ウイルス検診平均実施率、ウイルス検診陽性率は過去5年間の平均では、一般的に報告されている数値と大きく差はない。

しかし肝炎検診受験者にはリピーター、既受診者が多く、新規陽性者は年間に数人しかいなかった。つまり当院における陽性者において、毎年受検している受検者やすでに受診・加療を行っている患者がその多くを占めているということである。ウイルス肝炎検診は感染のリスクがない限り、何度も受ける検査ではない。リピーター率が低く、これまで受検したことがないドック受検者の受診勧奨を促す工夫が必要である。

2. 検査陽性者の受診勧奨について

ウイルス肝炎検診陽性判明後の未受診は、B型肝炎で男性の仕事世代に多い傾向を示した。

少ない症例数のため、上記傾向が本当かどうかは疑問の余地がある。また当院ドックでは当院への受診勧奨を行っているが、他県からの検診者も同一の方針となっており、他施設への受診の有無については確認できていない。陽性者が他院も含めて受診したかどうかを確認する何らかの方法が必要である。

E. 結論

人間ドックにおけるウイルス肝炎検診はB型肝炎では受検率が高いが、C型肝炎では30%程度と低い。その受検者の中には毎年受検しているリピーターも多く、陽性者の中でもリピート率が高い。リピーターを減らし、新規受検者を増加する方策が必要である。新規陽性者の陽性判明後受診率は低い可能性が高く、受診勧奨についても工夫が必要である。

F. 政策提言および実務活動

< 政策提言 >

厚生労働科学研究費・肝炎等克服政策研究事業「職域等も含めた肝炎ウイルス検査受検率向上と陽性者の効率的なフォローアップシステムの開発・実用化に向けた研究」(H29-R1)の一環として研究活動を行い、一般病院の人間ドックにおけるウイルス肝炎検診の実情を調査した。

< 研究活動に関連した実務活動 >

上記に研究班活動に加えて、武蔵野赤十字病院消化器科副部長及び東京都肝疾患診療連携拠点病院肝疾患センター副センター長として、厚労省肝炎対策推進室、全国肝疾患診療連携拠点病院と連携し、肝炎に関する総合的な施策の推進活動に携わっている。

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

なし

3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

- * 板倉潤：講演・グループワーク「職場における肝炎に関する理解促進のための取組について」 東京都職域向けウイルス性肝炎研修会コーディネーター養成コース（2日目）令和2年2月14日
主催：東京都福祉保健局保健政策部疾病対策課

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし